

## 『フードシステム研究』報告論文投稿・審査について

### 1. 報告論文

報告論文とは、大会の個別報告を元にしたコンパクトな論文で、一点でも新知見がある、あるいは新たな研究方法・視点の提起、の何れかを満たすものです。論文作成にあたっては、下記、審査のチェックポイントを参考に執筆して下さい。なお、論文は未公開のものに限ります。

### 2. 審査・掲載

原則として審査員 2 名による 2 回までの審査を行い、編集委員会において採否を決定します。また、掲載が認められた論文は、**4 号（翌年 3 月刊）**掲載する予定です。

### 3. 投稿・審査の流れ

- ① 学会ホームページ上で大会への参加登録を行った上で、報告要旨を様式「報告要旨 2019」に従って作成し、下記送付先に送信する。**【5/7（火）正午必着】**

＜報告要旨の送付先＞ [fshoukoku-19@ml.affrc.go.jp](mailto:fshoukoku-19@ml.affrc.go.jp)

- ② 報告論文（4 または 6 ページ）を様式「報告論文 2019」に従って作成し、オンライン投稿審査システム（Editorial Manager）により提出する。また、審査料 7,000 円について支払い証明書を論文と合わせてアップロードする。**【7/1（月）正午必着】**

※修正・審査期間が限られているため、提出や支払等の遅れは受け付けません。また、混乱を避けるため、提出後の差し替えについても認めておりません。

※審査料 7,000 円を下記口座に振り込み、利用明細等の証明書をオンライン投稿時にアップロードして下さい。

納入先：日本フードシステム学会

郵便振替（振替番号：00180-5-593122）、または、

銀行振込（**三菱 UFJ 銀行**目黒駅前支店、普通 1324319）

- ③ 9 月上旬：1 回目の査読結果の通知
- ④ 審査後、修正依頼があった場合、査読結果の通知後 3 週間以内に修正原稿と対応表を作成し、オンライン投稿審査システム（Editorial Manager）により提出する（9 月下旬～10 月上旬頃）。
- ⑤ 11 月上旬～中旬頃：2 回目の査読結果の通知
- ⑥ 再審査後、再修正依頼があった場合は、査読結果の通知後 3 週間以内に最終原稿と対応表を作成し、編集委員会に提出する（11 月下旬頃）。2 回目の査読結果の通知時点で、編集委員会よりネイティブチェック証明書の提出が求められた場合は、ネイティブチェックの証明書も合わせてアップロードする（ネイティブチェックについては後述）。
- ⑦ **12 月上旬**：最終審査結果の通知。掲載が決定した場合、所定の掲載料（4 ページの場合 2 万円、6 ページの場合 3 万円）を振り込む。

#### 4. ネイティブチェックについて

英文サマリーおよびキーワード、英文原稿についてはネイティブスピーカーによるチェックを受けて、チェック者によるサイン付き証明書（任意様式）を添付しなければなりません。ただし、英文サマリーおよび英文原稿は必要に応じて編集委員会で修正する場合があります。

ネイティブチェックの提出時期は「採択後」となります。採択前、例えば論文提出時にネイティブチェックを実施することはお控え下さい。審査によってサマリー部分に大幅な修正が入る場合があります、その場合には再度ネイティブチェックを実施する必要があります。

2 回目の査読結果の通知時点で、採択の可能性が非常に高い報告論文についてはその時点で編集委員会より、ネイティブチェック証明書の提出を著者に依頼させていただきます。ネイティブチェック証明書の提出の時期は審査の状況によって変わるため、編集委員会の案内をお待ち下さい。

#### 5. その他

報告論文投稿規定ならびに論文投稿規定も併せてご参照ください。ご不明な点については、学会ホームページまたは学会誌編集委員会 (enquiry\_jfsr@ml.affrc.go.jp) までお問い合わせ下さい。

[参考] 報告論文審査のチェックポイント

##### 1) オリジナリティについて

・いずれも満たしていない場合は不可とする。

- 一点でも新知見がある
- 新たな視点・研究方法の提起がある

##### 2) 構成について

・著しく満たされていない項目があるかをチェックする。著しく満たされていない項目が多く、短期間で修正不可能な論文は不可とする。

- タイトルが適切である
- 研究レビューが適切である
- 研究目的が明確である
- 研究方法が適切である
- 研究目的にあった結論を論理的に導き出している
- 専門用語の使用が適切である
- あきらかな事実誤認がない
- 事例から一般化した結論を導き出している
- 計算プロセス、モデルに誤りがない

##### 3) 体裁について

- ・著しく体裁が整っていない論文は不可とする。
- 日本語表現、あるいは英語表現が適切である
- 本文、図表、注釈が規定の様式に従っている